

令和6年度事業報告書
(簡略版)

社会福祉法人誠友会

は　じ　め　に

本年 1 月 20 日、米国でドナルド・トランプ氏が大統領に就任した。その公約は、両国国境非情事態宣（不法移民排斥）、貿易関税見直し（市民所得税非課税）、政府効率化省＝DOGE 設置（ムダの削減）、LGBT 廃止（常識を取り戻す）等々。今、世界はナショナリズムによる革命が進行していると言って過言ではない。一方、わが国は昨年 10 月 1 日に石破内閣が発足して「五つの守る（ルール、日本、国民、地方、若者・女性の機会）」を表明し、所信方針演説では「楽しい日本（今日より明日はよくなる）」を基本政策とした。その国のリーダーがその国、その国民をどこへどう導いていくのか…。昨年度は大きな転換点、方向が示された年であった。

令和 6 年度、誠友会は BCP の柱として経営基盤の強化を再認識し、収入と人材の確保による業務の継続性を基本方針とした。基本事業と収益事業を安定的に実施し、海外拠点整備による外国人労働者の確保に努めた結果、松ヶ丘白草園の運営が改善され、太陽光発電設備の監視システムを強化し、スリランカからの特定技能労働者 4 名を雇用することができた。日米の国のあり方がもたらすものは令和 7 年度以降に具体化されていくのであろうが、誠友会の事業活動収支決算が黒字で終わったことは私たち自身の努力がもたらしたものである。

しかしながら、わが国の福祉界はますます厳しさを増している。人材不足と物価高により経営環境の悪化により事業閉鎖や経営者移転が相次いでいるのである。昨年の出生者数 720,988 人という現実、人生 80 年とすれば 80 年後のわが国の人口は約 5,800 万人。介護業界の 2025 年問題は、団塊の世代が後期高齢者になることを前提にした介護職員不足であるが、2040 年問題は、団塊ジュニア世代が 65 歳以上になり、労働力の急激な減少や社会保険費の増大が大きな懸念とされているのである。将来においても合法的な移民対策として外国人の雇用が必須であることを示している。ただし、保育士については外国人雇用が認められていないため、昨年度に 9 名の従事者が退職した保育事業の運営には大きな課題が残っていると云わざるを得ない。これらは単に少子高齢化だけによるものではなく、肉体労働と頭脳労働に加え、「感情労働者」としてそのメンタルに対する理解と支援を必要とされる介護職や保育職への環境整備等の必要性が見えてきた年でもあった。

「米国の黄金時代が始まった」という大統領の演説下、この方針を支えるイーロン・マスク氏は「ロボットが未来を支配する」と語った。ヒューマノイドとディープラーニングが実質無限のモノとサービスを提供し、AI が全てをこなすようになれば、仕事は選択肢になり、個人は喜びのために働くようになるというのである。日本のメディアが連日のように報道している米価格変動のみにこだわっている場合ではない。画像で示す事業報告のように、コツコツと現場業務や地域の人々と繰り返し広げる私たちの事業運営は、儲けることを目的とせず、ヒューマンサービスを提供しながら経営を安定させるという社会福祉法人の使命を全うしていくことである。この継続こそが私たちの「黄金時代」なのかもしれない。

令和 7 年 5 月

社会福祉法人誠友会
理事長 竹 内 淳

〔1〕 概 要

1. 法人及び施設の概要

(1) 法人

- ① 法 人 名 社会福祉法人誠友会
 ② 所 在 地 千葉県佐倉市岩名1011番地
 ③ 代 表 者 理事長 竹 内 淳
 ④ 設立年月日 昭和63年11月4日
 ⑤ 目 的 多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援する。

⑥ 役員 8名

令和7年3月31日現在

役職名	氏 名	住 所	公 職 等
理事長	竹 内 淳	〒285-0011 佐倉市山崎 368	誠友会 総務施設長
常務理事	竹内久美子	〒285-0011 佐倉市山崎 368	はくすい保育園 施設長
常務理事	安宅 香織	〒284-0025 千葉県緑区3-20-1-304	特養佐倉白翠園施設長
理 事	木村 正久	〒285-0015 佐倉市並木町 243	医 師
理 事	鈴木敬一朗	〒285-0047 成田市江井沢 220-81	特養 栄 白 翠 園 施設長
理 事	寺田 純子	〒285-0857 佐倉市宮ノ台5-12-8	佐倉市社会福祉協議会理事
理 事	岩淵 康雄	〒166-0011 東京都港区西豊2-15-9	佐倉中央病院 病院長
監 事	佐藤 満	〒284-0008 四街道市鶴ヶ丘305-2	元四街道市福祉サービス部長
監 事	井戸川昌三	〒284-0001 四街道市大日470-36	公 認 会 計 士

⑦ 評議員 7～9名

役職名	氏 名	住 所	公 職 等
評 議 員	大久保謙夫	〒270-1515 栄町安食 3660	NPO法人 栄町観光協会理事長
評 議 員	中野いく子	〒285-0025 佐倉市鶴木町 235	〈特許〉日本地域福祉研究所 主任研究員
評 議 員	櫻 井 聖	〒285-0011 佐倉市山崎 500-1	元佐倉市内野地区社会福祉協議会会長
評 議 員	峰村 愛子	〒285-0034 佐倉市千成 1-20-4	ボランティア代表
評 議 員	田代 道郎	〒112-0002 東京都港区赤坂3-16-8	元入所者 家族代表
評 議 員	飯原 勝世	〒285-0815 佐倉市城 203-2	松ヶ丘防犯グループ会長
評 議 員	穴原 昌弘	〒270-1515 栄町安食 2-5-17	千葉県民生児童委員会会長 OB 会会長
評 議 員	西原 弘明	〒285-0850 緑ヶ丘-カ/近1-24-1	社会福祉法人愛光 理事長
評 議 員	堀井弥奈子	〒135-0063 葛飾区鶴1-2-11-304	関生福祉自動車学校 代表取締役社長

⑧ 評議員選任解任委員 3名

役職名	氏 名	住 所	選 出 分 野
監 事	佐藤 満	〒284-0008 四街道市鶴ヶ丘305-2	誠友会 監 事
事務局	小笠原 健	〒284-0001 四街道市大日2208-1	特養佐倉白翠園 生活相談室室長
外部委員	野口 恭義	〒285-0861 佐倉市日井田 1029	元誠友会理事・評議員

2 会議開催状況

(1) 理事会 全4回 評議員会 全3回

主な議題

定款変更、事業報告、事業計画、予算、決算、各種規程変更、つなぎ融資等

(2) 苦情処理委員会開催状況 全2回

(3) 合同経営会議 全11回

2 佐倉白翠園

佐倉市内では入所者及び在宅利用者の獲得が難しい状況下、園内で1月に発生したA型インフルエンザクラスターの影響により稼働率が前年度より低下したが、介護報酬単価増により稼働額への影響は少なかった。依然として人材確保の厳しい状況が続いている中、育児や高齢者福祉が特定部署に集中したが、園内フォロー体制で職員への負担を軽減することが出来た。コロナ前と比較すると特養の退所者が多い傾向にあるが、重症化への対応に加え、ボランティアの受け入れや運動、交流事業を促進し、豊かな生活環境に繋げることが出来た。

[1] 特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）

1 指定施設サービス内容 定員64名

2 会議等

所長会議（全38回）

給食委員会（全13回）

職員全体会議（全2回）

衛生委員会（全12回）

経営会議（全11回）

感染対策委員会（全17回）※臨時7回

看護会議（全12回）

行事委員会（全11回）

介護会議（全体会議2回）

入所（入居）検討委員会（全11回）

介護リーダー会議（全12回）

※ 事故防止委員会、安全対策委員会、褥瘡対策委員会、虐待防止委員会同日開催
個別処遇会議（全35回）

3 防災

(1) 防災訓練実施日及び内容 全10回

4 ボランティア活動

(1) ボランティア活動年間延べ 680人（前年度 277人）

(2) ボランティア懇談会 全2回

5 地域交流事業 全16回

6 実習生受け入れ状況 年間実人数 10名 延べ人数 146人 延べ日数 107日 福祉・教育系等

7 各部門

【生活相談室】 正職1名

上半期は安定していて稼働率が97.91%であったが、年間を通すと退所者20名（前年度14名）で平均稼働率は減少。介護度に関しては、介護認定更新時に介護度が良くなる方が数名出ており平均介護度が下がる。

(1) 年間平均稼働率 94.6%（前年度 96.2%）

(2) 平均介護度 4.04（前年度 4.06）

(3) 平均年齢 83.0歳（前年度 84.0歳）

【看護室】 加算配置1名 正職2名 嘱託・パート：7名（ショート・デイ・ユニット兼務）

12月～1月に園内にてインフルエンザA型が発生し利用者14名が感染した。関係機関と連携し、園内療養を実施した。概ね軽症であったが3名は入院となった。入院者、死亡者、療養型への退所者が昨年に続き多い傾向が続いている。

- (1) 病院受診状況 年間延べ828名 (前年度年間延べ 690名)
 (2) 入院状況 年間 50名 (前年度年間 41名)
 (3) 死亡者数 年間 13名(園内看取り 8名) (前年度 13名(園内看取り6名))

【栄養室】 配置正職1名（ショート・デイ・保育兼務）

入退所により平均介護度・平均年齢が前年度よりやや下がったが、全体的な食レベルは概ね概ばいであった。多部署との連携により、栄養補助食品の使用率は減少した。前年度に引き続き各部と連携し、昔ながらの生活に密着した、季節の行事に合う食事を提供した。

【介護部】 正職11名 嘱託・パート17名（ショート担当兼務5名）

前年度と同様、積極的に行事ボランティアを受け入れた他、中庭の花壇整理等の環境整備に関してもボランティア協力が得られており、入所者の生活の充実と地域共生への取り組みに繋げることができた。

- (1) 年間行事参加人数（SS含） 1265名（前年度1217名）
 (2) 年間誕生会参加人数（SS含） 68名（前年度 57名）
 (3) 年間クラブ・レク実施状況（SS含） 36回（前年度31回）
 (4) 精神スケール調査

令和6年12月1日～12月31日 改訂 長谷川式スケール調査

	カットオフポイント	令和5年度	令和6年度
非認知症	21点以上	6	7
認知症	20点以下	31	33
調査不可能	—	20	17
未調査	—	4	4
合計	—	61	61

【2】 特別養護老人ホーム（ユニット型介護老人福祉施設）

1 指定施設サービス内容 定員50名（1ユニット10名×5ユニット）

2 食器等 ユニットリーダー会餐 全10回

※ 事故防止委員会、褥瘡対策委員会、行事委員会同日開催
 ユニット会議（全4回） 個別処遇会議（全34回）

3 ボランティア協力状況 年間延べ14名（前年度17名）

4 各部門

【生活相談室】 正職1名

退居者数が多く20名の方が退居した。前年度に比べると平均稼働率は減少したが、令和6年度介護報酬改定の影響と加算の安定的な算定により稼働率は上昇した。

- (1) 年間平均稼働率 93.4%（前年度94.0%）
 (2) 平均介護度 4.09（前年度 4.20）
 (3) 平均年齢 88.4歳（前年度 88.5歳）

【看護室】 加算配置1名 正職1名 嘱託・パート：7名（ショート・デイ・ユニット兼務）
12月から1月にインフルエンザA型が発生し、14名が感染し院内にて療養を実施した。
療養後の入院は3名であった。年間の入院者や死亡者は引き続き前年度より増加し、医療
ニーズの高い入居者が増えている。

- (1) 病院受診状況 年間延べ606名（前年度年間延べ 517名）
(2) 入院状況 年間54名（前年度年間 49名）
(3) 死亡者数 年間18名（園内看取り12名）（前年度 15名（園内看取り14名））

【栄養室】 正職兼務1名

入退居により平均介護度はやや下がったが、起きざみ食やペースト食の喫食者数は殆ど変
わらず、嚥下調整食のニーズは高い。出前食を定期的に実施し、食で楽しめる企画に努めた。

【介護部】 正職14名（うち育児休暇1名、療養休暇1名）、パート13名

外部の方の受け入れもコロナ禍以前の形に戻り、行事もより充実した内容で実施できた。
新規入居者の選定が難しくなっていることから、医療ニーズが高いもしくは周辺症状が重度
の方の入居が増えている。

- (1) 年間行事参加 26回（前年度31回）
(2) 年間誕生会回数 31回（前年度36回）
(3) 精神スケール調査

令和7年3月15日～3月31日 改訂 長谷川式スケール調査

	カットオフポイント	令和5年度	令和6年度
非認知症	21点以上	6	5
認知症	20点以下	23	24
調査不可能	—	19	17
未調査	—	2	4
合計	—	50	50

〔3〕 ショートステイサービス（短期入所生活介護事業）

1 指定居宅サービスの内容 定員10名

2 会議等 ショートステイ会議 全6回

3 各部門

【生活相談室】 正職1名

新規利用者は32件、利用中止者は22件あった。新規入所と中止者は昨年と同数程度で
あった。令和6年4月、5月は従来型の措置入所としてショートステイの居室を使用。令和
7年1月はインフルエンザが園内発生により稼働率は低下している。

年間平均稼働率 83.6% 平均利用 8.3名
(前年度 84.3% 8.4名)

【看護室】 加算配置1名 正職1名、嘱託・パート：7名（ショート・デイ・ユニット兼務）
医療行為が必要な利用者の受け入れを行い、各々安定した定期利用に繋がっている。

- (1) 年間医療行為利用者 延べ 204名（前年度 407名）

【栄養室】 正職1名（従来型・デイ・保育兼務）

食レベルは昨年とほぼ変わらなかった。前年度に続き、セレクトおやつを実施した。

【介護部】

デイサービスとの合同企画で、ミニ運動会を実施。春と秋に予定通り外出企画を実施。

定期的に行っている手工芸の他にも、ボランティアの協力の元、中庭を定期的に整備し、
中庭での散歩や花摘みを実施することが出来た。

[4] デイサービスセンター（通所介護事業）

- 1 指定居宅サービス内容 通常規模型通所介護（定員）月曜～土曜：25名
- 2 会議等 デイ会議 全12回
- 3 ボランティア協力状況 年間延べ246名（前年度176名）
- 4 実習生受け入れ状況 年間実人数 8名 延べ日数 40日 医療系、介護系

5 各部門

【生活相談室】 専任正職1名 兼務1名

新規利用者は20名と昨年より4名少なくなったが、下半期の利用中止者や入院者が多く、利用日追加22件あったが、2%ほど減少した。

- (1) 稼働率 通常・予防型 年間平均稼働率 63.8% 平均利用 15.9名/日
(前年度 65.7% 16.4名/日)
- (2) 平均年齢 86.5歳（前年度85.8歳）
- (3) 新規利用者数 通常型 20名（前年度24名）
- (4) 中止者数 通常型 13名（前年度19名）

【看護室】 嘱託・パート：3名（従来型・ショート・デイ・ユニット兼務）

- (1) 年間運動器機能 年間 0名（前年度0名）
- (2) 医療行為件数 年間 延べ人数 13名（パレン留置者）

【栄養室】 正職1名（従来型・ショート兼務）

行事食実施状況 季節の行事ごとに実施 運動会、クリスマスメニュー等
その他、毎月イベント食を実施。企画内容によって、はくすい農園や園芸クラブで収穫した野菜を使用。また、松ヶ丘白草園デイサービスセンターへの給食提供をサポートした。

【介護部】 正職1名（内1名兼務） 嘱託、パート9名

8月コロナ禍により実施できていなかった緑日を実施、ボランティアを含め、優しく開催することができた。スポット派遣を依頼し人員不足時に円滑に業務が回るよう工夫を行った。

園内外活動状況 （園外）ミニ運動会、緑日、文化祭、秋祭り、収穫祭、すくも
（園内）行事、レクリエーション、クラブ活動及び誕生会（毎月）

- 6 通所型サービス（佐倉市委託事業） 全30回 農園教室
参加者延べ116名 ボランティア89名

[5] ケアサービスセンター

正職1～2名、特定事業所加算を年間通して取得できない状況化、事業所としては減収。
利用者等引換式、佐倉市運営指導や移転引換し等、大変多忙な1年となった。
新規プラン受け付け状況は、利用者家族のプランと更新区間で支援や介護初回加算算定者を継続担当、積極的に新規は受けられない状況であった。独居や家族状況（メンタル等）から対応に時間を要す継続支援あり。

- 1 利用規模 78名→39名 ※支援1.2事業対象は3名で1名計算
- 2 会議等 ケアマネ会議 全16回
- 3 職員数 正職2名→1名
- 4 利用状況
新規プラン受付 年間10件（前年度33件）
年間利用件数 支援等 91件（前年度281件） 平均8件/月
要介護 517件（前年度1229件） 平均43件/月
- 5 介護者のつらい（佐倉市委託事業） 全8回

3 栄白翠園

事業全般、安定した1年だった。聴覚もほぼなく、各サービス順順に推移し大幅な収益増となった。町委託事業に関しては、一部行政側の不備があり思うように実施出来ないものもあった。自治会との共催秋祭り、防犯パトロールに加え、BCPに基づき、園での防災訓練にも新たに参加して頂いた。課題であった看護職員について非常勤2名の雇用は出来たが充足には至らなかった。技能実習生への育成もスムーズに行え、一定の成果を得ることが出来た。特定技能2名は1月末に契約期間満了となった。

[1] 特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）

1 指定施設サービス内容 定員50

2 会議等

所属委員会（全52回）	給食委員会（全12回）	
職員全体会議（全2回）	衛生委員会（全12回）	安全対策委員会（全12回）
経営会議（全12回）	感染対策委員会（全12回）	
看護会議（全12回）	行事委員会（全12回）	
介護部職員会議（全12回）	施設・在宅合同リーダー会議（全12回）	
個別処遇会議（全19回）	入所検討委員会（全12回）	
褥瘡対策委員会（全12回）	身体拘束適正化検討委員会（全4回）	

3 防災

(1) 防災訓練実施日及び内容 全12回

4 ボランティア活動 年間延べ0人（前年度 0人）

5 地域交流事業 0回

6 実習生受け入れ状況 年間実人数25名 延べ人数100人 延べ日数25日 福祉・医療系 教育系等

7 各部門

【生活相談室】 正職1名

上半期は平均稼働率98.4%と安定していた。下半期に入り、時節病体調を崩される方が続いたことで入院者等が増加したが、年間平均稼働率は目標に近い値を維持できた。職員体制や処遇の提供体制を整備することで加算の昇定に繋げ、前年度比で大幅な増収となった。

- (1) 年間平均稼働率 96.6%（前年度 96.8%）
- (2) 平均介護度 3.82（前年度 4.00）
- (3) 平均年齢 85.2歳（前年度 85.0歳）

【看護室】 正職2名（1名デイ兼務）パート3名（1名デイ兼務）派遣2名（デイ兼務）

感染症対策の緩和を行い、入所者や職員の体調管理等を看護室が主導し、感染症の蔓延を防ぐことができた。また、課託医をはじめ、協力病院との充実した連携により、入院人数の減少や、看取りを円滑に行うことができた。

- (1) 病院受診状況 年間延べ684名（前年度年間延べ709名）
- (2) 入院状況 年間 14名（前年度年間 19名）
- (3) 死亡者数 年間 17名（前年度 19名）

【栄養室】 正職1名（ショート・デイ兼務）

行事では園内観察にて技能実習生と特定技能実習生の母国のスイーツメニューを再現し、楽しんでいただいた。カリキュラムを変更し、出前食を夕食時から昼食時にしたことにより、特設だけでなく、デイサービス・ショートの利用者にも対応できるようになった。

【介護部】正職16名（ショート担当2名） 嘱託・パート7名

入所者、職員共に穏やかに安定して過ごせた1年だった。資格取得者も増え、質の向上にも繋がった。業務的にはタオル類をリースしたことにより職員の負担軽減やカリキュラムの幅が広がった。技能実習生も順調に経歴を積んでおり、大きな戦力となった。特定技能の2名は1月末にて契約期間満了となり、帰国された。

- (1) 年間行事参加人数（ショート含） 602名（前年度603名）
 (2) 年間誕生会参加人数 51名（前年度49名）
 (3) 年間クラブ・レク実施状況 32回（前年度33回）
 (4) 精神スケール調査

令和7年3月1日～3月31日 改訂 長谷川式スケール調査

	カットオフポイント	令和5年度	令和6年度
非認知症	21点以上	5	4
認知症	20点以下	32	31
調査不可能	—	13	12
未調査	—	0	2
合計	—	50	49

[2] ショートステイサービス（短期入所生活介護事業）

- 1 指定居宅サービスの内容 定員10名
 2 会議等 ショートステイ会議 全12回
 3 各部門

【生活相談室】正職1名（介護支援専門員兼務）

新規利用者は前年とほぼ変わらず41件受け入れた。稼働率は、最高89.9%、最低62.2%と月によって変動が見られたが、年間平均稼働率は前年比+3.1%となった。請求額も、介護報酬改定もあり増収となった。下半期は、緊急での受け入れを3件対応している。

年間平均稼働率 80.4% 平均利用 8.0名
 (前年度 77.3% 7.7名)

【看護室】

利用者だけでなく、同居家族の健康状態等の把握に努め、感染症の水密対策への配慮を行った。また、必要に応じて特養入所者とのソーニングや職員業務増強にも留意した。また、引き続き、医療ニーズの高い利用者の受け入れも積極的に行った。

- (1) 年間医療行為実人数6名 延べ 406回（前年度342回）

【栄養室】正職1名（特養・デイ兼務）

ベランダで育てた野菜を使用し、「Live キッチン」企画を行い好評であった。昼食時に出前食を開始した。咀嚼嚥下機能が低下した方でも栄養士が形態等に加工することで希望された方に外食を楽しんでいただいた。

【介護部】従来型に準ずる

特養本体との住み分けは継続しつつ、季節の行事等は合同で実施することができた。独自のLive キッチンは継続し、新たな取り組みとして、成田山外出や出前食の実施、外郡業者による理髪サービスを行った。

[3] デイサービスセンター（通所介護事業）

- 1 指定居宅サービス内容
 通常規模型通所介護（定員）月曜～土曜：25名

- 2 会議等 デイミーティング 全12回

3 ボランティア協力状況 年間延べ0名（前年度0名）

4 各部門

【生活相談室】 正職1名 パート2名兼務

新規利用者は27名と昨年を上回った。町委託事業の、短期集中リハビリデイの利用者選定に不備があり大幅な減収となった。処遇的には従来のもの以外にリースタールの活用を開始、また数年ぶりに理美容、出前食を実施し好評を得ている。

稼働率	通常型・総合型	年間平均稼働率	64.0%	平均利用	16名/日
			(前年度 65.3%)		16名/日
(1)	平均年齢	82.3歳	(前年度 85.0歳)		
(2)	新規利用者数	通常型・総合型	27名	(前年度 20名)	
(3)	中止者数	通常型・総合型	24名	(前年度 24名)	

【看護室】 正職1名（特養と兼務） パート1名 派遣2名

利用者だけでなく、同居家族の健康状態等の把握に努め、感染症の水密対策への配慮を行った。また、引き続き医療ニーズの高い利用者の受け入れも積極的に行った。

- (1) 医療行為実人数6名 延べ 248回（パレン留置・インスリン・酸素）

【栄養室】 正職1名（特養・ショート兼務）

昼食時に出前食を開始した。咀嚼嚥下機能が低下した方でも栄養士が形態毎に加工することとで希望された方に外食を楽しんでいただいた。

【介護部】 パート9名（内2名：生活相談室と兼務）

興味が引き立てる手工芸品の運業により男性利用者の参加も増えた。また、自治会の秋祭りでは作品を販売し、ほぼ完売となった。体操やレクリエーションにも、季節や話題性のものを取り入れ楽しく取り組まれた。

[4] 在宅介護支援センター（委託事業）

ここ数年は申請代行の依頼が増えてきている。他にも住宅改修の理由書作成のみの対応も行っている。自治会主催の秋祭りに介護相談と福祉用具の展示コーナーを開き好評であった。

- 1 利用規模 栄町全域
- 2 職員数 居宅介護支援事業所と兼務
- 3 利用状況 対応件数 39件（前年度 58件）

[5] ケアサービスセンター

利用者は平均稼働率 98.1%で高水準を維持している。認定調査の依頼及び契約市町村も増加傾向にあり対応している。ハラスメントを受けるケースなど困難事例が増えてきている。

- 1 利用規模 介護給付 103名 予防給付 30名
- 2 会議等 ケアサービスセンター会議 全51回
- 3 職員数 正職兼務 4名（うち1名は短期入所生活介護事業相談員を兼務）
- 4 利用状況

新規プラン受付 年間 51件（うち予防給付8件）（前年度74件（うち予防給付4件））
 年間利用件数 要支援 79件 平均 14.9件/月（前年度 149件）

4 松ヶ丘白翠園

サービス付き高齢者向け住宅（サ高住）では前年度よりも実利用者数が増加し、年度末時点で定員26名中25名入居となっている。デイサービスは利用者状況に合わせて、9月から定員を35から30名にしたが、利用者減少が続き、稼働率は前年度なみに終わった。食事について現在は佐倉白翠園との連携による提供となっているが、サ高住から始まったクックチル方式等による施設完結での食事提供体制構築に向けて検討中の段階である。

- [1] サービス付き高齢者向け住宅 兼務正職1名 兼務パート3名 パート3名 業務委託1名
紹介業者の活用等により、下半期を中心に新規入居を多く受け入れ（新規入居10名中7名が紹介業者を介しての入居、2名が行政または地域包括からの紹介、紹介なしでの新規入居は1名のみ）、前年度に比べて稼働率が上昇した。前年度末から採り入れたクックチル方式による食事提供も定着してきている。

- 1 サービス内容 定員26名（26戸）
- 2 会費等 職員全体会議 全2回
- 3 稼働率 78.0%（前年度 69.1%）
- 4 平均年齢 81.5歳（前年度 84.7歳） 平均介護度 1.3（前年度 1.7）

[2] デイサービスセンター

- 1 指定居宅サービス内容 通常規模型通所介護
（定員）8月31日まで月曜～土曜：35名
9月1日以降は月曜～土曜：30名
- 2 会議等
デイ会議 全11回 衛生委員会 全12回 感染対策委員会 全12回
- 3 防災 防災訓練実施日及び内容 全8回
- 4 ボランティア協力状況 年間延べ41名（前年度66名）
- 5 介護予防拠点事業 毎月第2日曜日 地域交流会「歌美会」開催。
- 6 各部門

【生活相談室】 正職1名 兼務正職1名

利用者数減少により、9月から定員を35名→30名に変更。しかしその後も利用者数の減少は続き、稼働率は昨年度なみに終わった。新規利用者はサ高住入居者または要支援が大半となっている。

- (1) 稼働率 通常・総合 年間平均稼働率 67.7% 平均利用 22名/日
(前年度 68.0% 24名/日)
- (2) 平均年齢 85.3歳（前年度 83.7歳）
- (3) 新規利用者数 通常・総合 19名（前年度17名）
- (4) 中止者数 通常・総合 25名（前年度26名）

【看護室】 パート2名

各部署との連携により個別機能訓練を実施。介護保険制度改正により運動器機能訓練加算が包括化されたが、要支援利用者に対しても同内容の機能訓練を行っている。サ高住入居者に対しては健康相談等により医療対応のサポートを行った。

- (1) 年間個別機能訓練 年間延べ4214名

【介護部】 正職1名 兼務正職1名 兼務パート1名 パート5名

松ヶ丘アリーナをはじめとして、敷地内資源を活用した機能訓練や行事などを実施。食事提供体制の変化に対応するため、介護職員が食料衛生責任者講習を受講した。

園内外活動状況 (園外) バン移動販売車による屋外リハビリ実施
(園内) 季節行事及びクラブ活動並びに誕生会毎月実施

5 佐倉地域包括支援センター

地域包括ケアシステムの実現に向け、地域ケア会議（在宅医療介護連携推進会議・予防のための地域ケア会議・個別地域ケア会議・領域推進会議等）を通じ、地域課題の把握、自助互助の関係づくり、医療・介護連携の推進、生活支援体制整備・認知症総合支援事業を推進している。

高齢化率は0.1%増加しているが、高齢者数は35人減少。

相談件数や予防支援利用者は増加している。

1 利用規模 佐倉市佐倉圏域（高齢化率 37.6% 高齢者数 10,234人）

2 職員数 正職7名 パート2名

3 利用状況

指定介護予防支援月別利用者数 年間延べ 3,764名（前年度 3,626名）

新規利用者数 年間延べ 124名（前年度 108名）

総合相談件数 年間延べ 1,039件（前年度 905件）

継続支援件数 年間延べ 3,385件（前年度 3,208件）

6 佐倉はくすい保育園

令和6年度の登録児童数54名となったが、3月には卒園生10名を小学校へ送り出すことができた。事業所内保育は高齢者施設、保育園の職員不足解消に寄与し、延べ680名が利用した。病後児保育においても、利用人数は少ないが常に受け入れできる体制を取っている。平成27年度7月より実施した一時預かり保育事業のニーズは0、1、2歳に多いが、定員枠内の利用に限られるため、利用者数は少ないが、年間延べ22名が利用。

令和6年度も、当園の特徴である高齢者施設との共生事業として、窓越し交流や戸外活動交流に取り組んだ。はくすい園園での養育力体験では沢山の笑顔が見られ、畑の野菜の収穫や調理する体験により、食への意欲と関心に繋ぐことができた。

1 認可保育所

(1) 利用規模 認可保育事業（定員）60名 病後児保育事業（定員）3名

(2) 保育職員数 全12回

(3) 利用状況

認可保育事業 登録児童54名 延べ年間利用人数10,839名

一時預かり保育事業 登録児童4名 延べ年間利用人数 22名

病後児保育 事前面接件数 22件（昨年32件）

年間利用人数 22名（昨年14名）延べ利用日数22日（昨年14日）

2 事業所内保育

(1) 利用規模 定員9名

(2) 利用状況 月極め利用 2名 一時利用 15名

延べ年間利用人数 680名（昨年670名）

平均 2.2名/日（昨年2.24名/日）

今年度も定員50名のところ、最終52名の登録児童となった。

猛暑に見舞われて夏の活動が著しく制約された。特に戸外に出られないことで、歩行の機会も少なく、室内活動を工夫して行ったものの体力低下を感じるがあった。

年度後半には意識して体力を上げる活動を取り入れた。

園児に支援が必要な子が多くなり、人材があっても安全確保が難しい場面が多くなった。保育士同士の連携をとり、限られたスペースの中で怪我を防ぐことに力を入れた。

一時預かり保育事業については、空きがあった2歳児クラスの利用後、入園に結び付いたケースがあった。

1 認可保育所

(1) 利用規模 認可保育事業 (定員) 50名

(2) 保育職員会議 全12回

(3) 利用状況

認可保育事業	登録児童	52名	延べ年間利用人数	10,694名
一時預かり保育事業	登録児童	2名	延べ年間利用人数	9名